

事業所における児童発達支援自己評価表(公表)

2019年度期

事業所名：TAKUMI川崎（児童発達支援）

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、十分なスペースを確保している。
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、原則指導員は常に4名体制となっている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	入口等はバリアフリーだが多目的トイレは無い
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	毎日掃除を徹底している
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	毎日朝礼時、終礼時に指導員全員でミーティングをして情報共有、振り返りを行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	本年度より実施予定
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	本年度より実施予定
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	外部評価は行っていない
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	定期的に外部研修、内部研修を行っている。各職員の知識・技能向上に努めている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	日々の変化を記録し、児童発達支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールは使用していない。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	発達支援に重点を置き、中でも自立支援・運動・創作・感覚統合・他者への関わりを目的とした個別療育、集団療育を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	日々の記録を参照しつつ、モニタリング等を経て個別支援計画を作成し、それに沿った支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	活動プログラムは複数の職員が担当している。ミーティング時に複数の職員で話し合いながら、利用者の特性に配慮したプログラムを作成している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	活動プログラムが固定しないように、更新や変更をしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	小集団（～8人程度）で運動、創作を行っている。

	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	各職員で役割分担をしている。支援の内容は毎日朝礼時に指導員全員でミーティングをして打ち合わせを行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	毎日終礼時に指導員全員でミーティングを行い気付いた点を共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	毎日利用者ごとにその日の支援に関して記録している。検討事案次第では次回までに検証、改善を行い、個別支援計画に反映させている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	半年以内にモニタリングを行っている。保護者との面談も実施している。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	担当者会議は、まだないが、必要に応じてふさわしいものを参加させる予定。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	そのような事例はまだない。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	体制は整っている該当者なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	体制は整っている該当者なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	体制は整っている該当者なし
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	機会があれば図っていききたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	機会があれば連携や研修を行っていききたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	現在は交流する場や機会を作っていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	機会があれば参加していく予定です。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	療育を通して出来たことや課題に関してはその場で伝い合えるようにしている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	歓送迎時、保護者へ機会があればお話をしている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時にその都度している。支援の内容も詳しく説明している。

保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	保護者の方からの悩み等に関する相談は指導員や児発管が悩みを聞き出すように声を掛けて助言や支援を行なっている。一人の判断で回答出来ない時はミーティングを行い回答するように心がけている。場合によっては子どもが近くにいらない時間帯に電話をし、相談に応じている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	保護者の方からの悩み等に関する相談はその都度一緒に考え共有している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	保護者会は行っていない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	速やかに対応するように心がけている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	会報はない。口頭や手紙等で連絡している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	利用者の個人情報については必要な時以外は鍵付きのキャビネットに入れて管理している。各職員取り扱いに注意している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	特にそのような事例がないが、適宜対応していきたい。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在は行っていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	左記マニュアル類はあり、職員には周知している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	今後、実施していく予定です。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	ご利用の契約の際に保護者の方にフェイスシートを記入いただいている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	該当者なし。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	終礼時のミーティングで話し合い。その都度記録している。毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止研修に参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	基本的に身体拘束をしないが他児に危害が及ぶ場合は別室でクールダウンして過す。

保護者等からの児童発達支援評価の集計結果(公表)

2019年度期

事業所名：TAKUMI川崎（児童発達支援）

	チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11	1				
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	9	2		1		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	12					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	12					
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10	1				
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	6	2		3		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	10	1		1		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	9	2		1		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	1	5	4		
10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10	1					

保護者への説明等	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	6	2	1	2		
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	4	4	3	1		
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	10	1		1		
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	9	2		1		
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	2	5	4		
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	8		2	2		
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10	2				
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	4	2	4	3		
非常時等の	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	7			2		
	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	4		4	5		

対応	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	2	4	5			
	満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	11	1				
		23	事業所の支援に満足しているか	10	2				

事業所における放課後等デイサービス自己評価表(公表)

2019年度期

事業所名：TAKUMI川崎（放課後等デイサービス）

		チェック項目	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	法令順守は勿論のこと、十分なスペースを確保している。 集団クラスで子どもが多い時は、サーキットを2つに分けて、運動量が確保できるように工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	配置加算を採用しているため、原則指導員は常に4名体制となっている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	入口等はバリアフリーだが多目的トイレは無い。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	毎日朝礼時、終礼時に指導員全員でミーティングをして情報共有、振り返りを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	今年度より実施していきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	自己評価は今後公開予定
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価は実施していない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	定期的に外部研修、内部研修を行っている。各職員の知識・技能向上に努めている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	日々の変化を記録し、個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	標準化されたアセスメントツールは使用していない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	活動プログラムは複数の職員が担当している。ミーティング時に複数の職員で話し合いながら、利用者の特性に配慮したプログラムを作成している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	活動プログラムが固定しないように、更新や変更をしている。

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	当事業所は、休日は定休日であり、長期休暇時もサービス提供は平日と特段変わりがないため、基本同じ内容で実施している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	個別クラスと集団クラスが設けられているため、契約時に適性を見極め各々のクラス設定を行い、子どもの成長度合いに応じ、クラス変更を児発管、指導員、保護者、子どもの意見を徴収し行っている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	支援開始前に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、課題を書き出しミーティングの中で、支援方法や役割分担を行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	支援終了後に必ず毎日打ち合わせの時間を確保し、1日の振り返りミーティングの中で、気づいた点や改善点洗い出している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	サービス提供記録へ記入し、更に独自の一日の情報記録用紙（子どもの一言情報）にも記入し、検証している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	契約後、3か月以内に定期的に保護者、児発管、指導員とミーティングを行い、計画の見直しの必要性を判断している
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	-
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	現在はサービス担当者会議に参加しておりませんが、各関係者を日程調整など行っており、今年度中には実施していく予定。 開始当初は、児発管のみ参加する予定であるが、将来的には指導員の参加も検討していきたい。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	学校のホームページから年間計画を参照し、情報共有を行なっている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	医療ケアが必要な子が現在在籍していない
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	問合せのあった支援事業所とは情報共有している
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	資料提供できる体制は整っているが該当児童なし
25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	定期的に外部研修、内部研修を行っている。各職員の知識・技能向上に努めている。	

	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	現在は限られた営業時間やプログラムの中では難しい為、実施していない。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	積極的に参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	毎回の支援終了後に、保護者とのフィードバックの時間を設け、学校や家庭での様子を伺いながら、支援の様子と合わせて、状況や課題を共通認識している。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援に関しては検討中。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	運営規程の内容や利用者負担額については、主に契約時にその都度している。支援の内容も詳しく説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	保護者の方からの悩み等に関する相談は指導員や児発管が悩みを聞き出すように声を掛けて助言や支援を行なっている。一人の判断で回答出来ない時はミーティングを行い回答するように心がけている。場合によっては子どもが近くにいない時間帯に電話をし、相談に応じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	見学している際の保護者同士は連携を支援出来ている様に思うが父母会や保護者会等がまだ行っていない
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	まだ苦情が無いのであった場合は迅速かつ適切に対応したい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	口頭での連絡が多いが、必要な場合は紙面での伝達を行っている
	35	個人情報に十分注意している	利用者の個人情報については必要な時以外は鍵付きのキャビネットに入れて管理している。各職員取り扱いに注意している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	今後必要に応じて検討していきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在特にしていないため、今後必要に応じて検討していく予定。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	左記マニュアル類はあり、職員には周知している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	今後行ってまいります。

非常時等の対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待防止研修に参加。参加した者が講師となって講習したり、虐待防止の資料をもとに内部研修を行なっている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	基本的に身体拘束をしないが他児に危害が及ぶ場合は別室でクールダウンして過ごす。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	フェイスシートで保護者からアレルギー等記入してもらっている。おやつが無いが、フェイスシートをもとに周知している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	終礼時のミーティングで話し合い。その都度記録している。毎日の振り返りで共有し、対策を打っている。

保護者等からの放課後等デイサービス評価の集計結果(公表)

2019年度期

事業所名：TAKUMI川崎（放課後等デイサービス）

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	15	2	0	鏡やボルダリングが欲しい。	検討してまいります。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	13	4	0		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	4	2	トイレ狭い	
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	16	1	0	学校体育を取り入れて欲しい	プログラムに学校体育を入れる検討をしております。
	5 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	17	0	0		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	2	13	交流を求めるサービスではない。	-
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	16	1	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	17	0	0	発達状況や課題が親も理解出来ていない。宿題もやっていないのでランドセルの中をチェックして欲しい。	保護者様からのニーズ等をしっかり把握し検討していきたいと思っております。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	14	3	0	助言してくれる先生が決まっているので、各方面のプロからも聞きたい。家庭で実践可能な支援の助言を具体的に教えてほしい。	送迎時や、面談時にしっかりとお話しさせていただきたいと思っております。
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	3	13	保護者が持っている情報・チラシ等が置けるスペースが欲しい	検討してまいります。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	9	8	0		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	3	0	職員同士の伝達が出来ていない	職員間で抜け漏れがないように、ミーティング時に確認項目としてまいります。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	7	8	2		
14 個人情報に十分注意しているか	13	4	0			
非常時等の対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	7	5	5		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	12	3	実際やっているのを見たことがないので、分からない	今後、実施する予定です。
17 子どもは通所を楽しみにしているか	16	1	0			

満足度	18	事業所の支援に満足しているか	16	1	0	療育の成果顕著を感じる。(成功体験積ませている。)	今後も支援に満足して頂けるように継続していきます。
-----	----	----------------	----	---	---	---------------------------	---------------------------